

令和4年度 学校自己評価システムシート（さいたま市立 三橋 中学校）

学校番号 224

【様式】

目指す学校像	子どもが行きたい学校 保護者が行かせたい学校 教職員がやりがいを感じられる学校 地域が信頼を寄せる学校		
重点目標	1 教育DXを踏まえた、一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現及び基礎学力の向上 2 生徒指導・教育相談の充実を基盤とした、自他の人権を尊重する安心・安全な学校の具現化 3 学校運営協議会と連携し、コミュニティ・スクールとしての成長及び開かれた学校の推進 4 教職員の指導力向上を図るとともに、Well-Being な職場の構築の推進		

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成（8割以上）
	B	概ね達成（6割以上）
	C	変化の兆し（4割以上）
	D	不十分（4割未満）

学 校 自 己 評 価								学校運営協議会による評価	
年 度 目 標				年 度 評 価				実施日令和5年2月9日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1 ※学力向上	〈現状〉 ○令和3年度全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ概ね良好な結果である。 ○令和3年度さいたま市学習状況調査において、学習に対する関心・意欲に関する質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、市平均と比べ国語、社会、数学、グローバル・スタディでやや高く、理科でやや低い。 ○授業にしっかりと取り組み、グループワークやペア学習に意欲的に取り組む生徒が多い。 〈課題〉 ○令和3年度全国学力・学習状況調査から、国語の「書くこと」及び数学の「数量や図形などについての知識・理解」が市平均よりやや低い。 ○理科への関心・意欲がやや高まっておらず、授業内容を生徒の生活と関連付けながら、興味・関心を高めるようにすることが課題である。	・一人一台端末を活用した「主体的・対話的で深い学び」及び個別最適な学びの実現 ・「STEAM S TIME」の実施による探究的な学びの実現	①一人一台端末を効果的に活用した研究授業や公開授業を実施し、研究協議を行うことで授業の質を向上させる。 ②ドリルパークやスタディサプリ、デジタル教科書などのデジタル教材を学校や家庭学習で活用し、基礎学力の向上を図る。	①全ての教科において、一人一台端末を活用した研究授業や公開授業を実施することができたか。 ②学校評価（生徒）項目「授業は楽しくわかりやすいか」等において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。	①全ての教科において、一人一台端末を活用した研究授業や公開授業を実施することができた。 ②学校評価（生徒）項目「授業は楽しくわかりやすいか」等において、肯定的な回答を9割以上とすることができた。	A	・基礎学力の定着に引き続き取り組みたい。生徒アンケートによると、一人一台端末を活用すると、「学習に取り組みやすい」と回答した生徒が9割以上いたことを踏まえ、端末を活用した個別最適な学びを更に推進し基礎学力等を定着させたい。	生徒は、落ち着いた環境の中で授業を実施している。学校は、GIGA スクール構想の実現を図るとともに、各教科等において積極的に一人一台端末を活用しており、校内の ICT 環境の充実や生徒の ICT スキルの向上のみならず、個別最適な学びの具現化に努めている。従来の手書き等で進めてきた学習方法の良い点を生かしつつ、ICT を効果的に活用した学習方法を充実させ、更なる学力の向上を期待する。	
2 ※安心・安全	〈現状〉 ○令和3年度さいたま市学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、全ての学年で市平均を上回った。 ○昨年度、施設・設備の不具合が原因のケガは0件だった。 〈課題〉 ○一人ひとりに寄り添いながら、組織的な支援・相談をする体制を継続しているが、複雑な家庭環境を抱える生徒もいることから、より積極的な専門機関との支援体制の構築が課題である。 ○教職員のみならず、生徒自身が自ら危険を予測できる力をはぐくむことが課題である。 ○感染対策に重点を置いたさらなる学校生活の見直し、改善が課題である。	・いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決のための校内体制の充実 ・安全な生活に主体的に取り組む生徒の育成に向けた取組の充実	①生徒一人ひとりの心の状態や人間関係等を把握するためのアンケートを年間6回以上行い、生徒面談を実施する。 ②週に1回の生徒指導員会及び教育相談員会を開催し、生徒の状況を細かに情報共有するとともに、支援体制の確認、適切な支援を実施する。	①学校評価（生徒）項目「先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれるか」等において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。 ②学校評価（保護者）項目「学校は、生徒から相談されたことに適切に対応しているか」等において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。	①学校評価（生徒）項目「先生は、悩みや相談に親身になって応じてくれるか」において、肯定的な回答を9割以上（99.3%）とすることができた。 ②学校評価（保護者）項目「学校は、生徒から相談されたことに適切に対応しているか」において、肯定的な回答を9割以上とすることができた。	A	・生徒指導・教育相談キャッチフレーズ「よりそう かかわる かわいがる」に基づく共通理解・共通行動を実践し、各事案に対して組織的に対応し、事案解決することができた。 引き続き、いじめや不登校の未然防止、早期発見、早期解決のための校内体制を充実させたい。	・いじめ対策については、学校は、いじめの早期発見・早期解決、未解決ゼロに向けてよく取り組んでいる。いじめは潜在化させず顕在化したほうが良い。生徒はあいさつが良くできており、校内の雰囲気も良い。生徒の悩みに対する教員の関わり方に関するアンケートの肯定的回答が高く安心した。 ・交通安全については、今年度は大きな事故が無く安心してはいるが、引き続き、学校・家庭・地域が一体となって生徒の安全を守っていきたい。	
3 ※開かれた学校	〈現状〉 ○昨年度、三橋小・中学校運営協議会準備委員会を立ち上げ、目指す子どもの姿について熟議することができた。 ○コロナ禍において、保護者や地域に対して制限された行事や学校公開の実施となった。 〈課題〉 ○今年度の学校運営協議会において、目指す子どもの姿の実現に向けて、家庭、地域などに広め、共有できるようにする。また、さらに熟議を積み重ね、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に踏み出す。 ○コロナ禍においても、オンライン等を活用した積極的な教育活動の公開が課題である。	・学校運営協議会を通じた地域、保護者との信頼関係の構築 ・コロナ禍における学校行事・学校公開の充実	①学校運営協議会を年3回以上実施する。 ②本校HPに、新たに「学校関係者専用」ページを作成し、目指す生徒の姿等を広く、家庭や地域と共有できるようにする。	①学校運営協議会を年3回以上実施することができたか。 ②学校評価（保護者）項目「学校は、地域や保護者と連携・協力している」か等において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。	①コロナ禍により第2回は資料開催となったが協議会を年3回実施することができた。 ②学校評価（保護者）項目「学校は、地域や保護者と連携・協力している」において、肯定的な回答を9割以上とすることができた。	B	・第2回協議会が資料開催となり、各委員に学校の様子を直接ご覧いただく機会を設定することができなかった。引き続き、協議会及びPTAを通じた地域、保護者との信頼関係の構築を推進したい。	学校運営協議会で熟議し決定した、三橋学区で目指す児童生徒像の確立の意義は大きい。健やかな児童生徒の育成に向け、今後も家庭と地域が学校に協力していく。コロナ禍においても、学校から定期的な電話連絡や学校だよりの配付があり、学校の様子はよくわかった。また、数年ぶりに PTA が主催するボランティア活動を開催できてよかった。今後も更なる連携を図っていきたい。	
4 ※教職員の資質向上	〈現状〉 ○研究主題「望ましい人権感覚をもち、自ら考え、よりよく生きる生徒の育成～人権について理解し、自他を認め合う活動をおして～」を設定し、学校課題研究を進める。 ○職場環境を整え、働き方改革を推進している。 〈課題〉 ○生徒及び教職員の人権感覚を更に高めるための取組を推進することが課題である。 ○職員の心身の健康を維持するとともに、時間外在校時間を短縮させることが課題である。	・教育活動全体をととした人権教育の推進及び人権教育研修の実施 ・Well-Being な職場の構築	①定期的な校内研修員会を開催し、学校課題研究を計画的・組織的に推進し、校内研修を実施する。 ②人権教育の視点を踏まえた授業及び学校行事を実施する。 ③教育DXの実現を踏まえたICTを活用した職場環境を整備し、業務の効率化を図る。	①年間3回以上の人権教育に関する研修を実施することができたか。 ②学校評価（生徒・教職員）における人権教育に関連する項目において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。 ③学校評価（教職員）における職場環境に関連する項目において、肯定的な回答を8割以上とすることができたか。	①年間3回以上の人権教育に関する研修を実施し、教職員の人権感覚を醸成することができた。 ②学校評価（生徒・教職員）における人権教育に関連する項目において、肯定的な回答は9割以上とすることができた。 ③会議資料のペーパーレス化や職員室へのデジタル掲示板の設置等、ICTを活用した職場環境を構築した。学校評価（教職員）における職場環境に関連する項目において、肯定的な回答は約7割であった。	B	・教育活動全体をととした人権教育の推進及び研修を実施し、市教委委嘱の人権教育研究発表を開催した。引き続き、学校全体で組織的に人権教育に取り組み、教職員及び生徒の高い人権感覚の水準を維持したい。 ・Well-Being な職場の構築を目指し、教育DXを踏まえた職場環境の構築を推進したが、教職員の業務量はや精神的負担の軽減を実現するための更なる取組を検討したい。	・人権教育の研究に取り組み、生徒及び教職員の人権意識を涵養したことは大変意義がある。引き続き、三橋中学校の人権教育を推進したい。 ・若手教員が増える中、授業力の向上に期待したい。 ・職員室の照明が遅い時間まで点いている。働き方改革を推進し、教職員の心身が健康であることが生徒の健やかな成長につながるものと考える。	

